

# 日本疫学会 疫学の未来を語る若手の会

世話人一同

連絡先：伊藤ゆり [itou-yu2@mc.pref.osaka.jp](mailto:itou-yu2@mc.pref.osaka.jp) 清原康介 [kiyosuke@research.twmu.ac.jp](mailto:kiyosuke@research.twmu.ac.jp)

## ● 疫学とは

- **疫学の定義**：明確に規定された人間集団の中で出現する健康関連のいろいろな事象の頻度と分布およびそれらに影響を与える要因を明らかにして、健康関連の諸問題に対する有効な対策樹立に役立てるための科学 (by 日本疫学会)。
- **疫学の役割**：疾患の原因の究明、疾患の分布状況や予後の観察、予防や治療方法の有効性評価、健康政策のための基礎情報の提供、などなど。

## ● 日本疫学会 <http://jeaweb.jp/>

- **目的**：疫学研究の進歩発展と会員相互の交流。
- **設立**：1991年
- **会員数**：1680人 (2014年3月現在)
- **学会誌**：Journal of Epidemiology (IF=2.113)
- **主な活動**：学術総会 (年1回)、セミナー (年2回)

## ● 疫学の未来を語る若手の会 <http://youth.jeaweb.jp/>

- **目的**：自称若手疫学者が集まり、意見交換をし、将来を語り、たまに酒を飲むこと。
- **疫学の未来を語る若手の集い**：1996年より学術総会時に開催 (今年で19回目)。様々なテーマで講演や座談会。例年100名前後の参加者。
- **メーリングリスト**：1998年より運用開始。公募情報、開催案内、研究に関する質疑応答などの内容。登録者は214名 (2014年1月現在)。

## ● 個人の研究紹介

### がん患者の生存率における社会経済格差

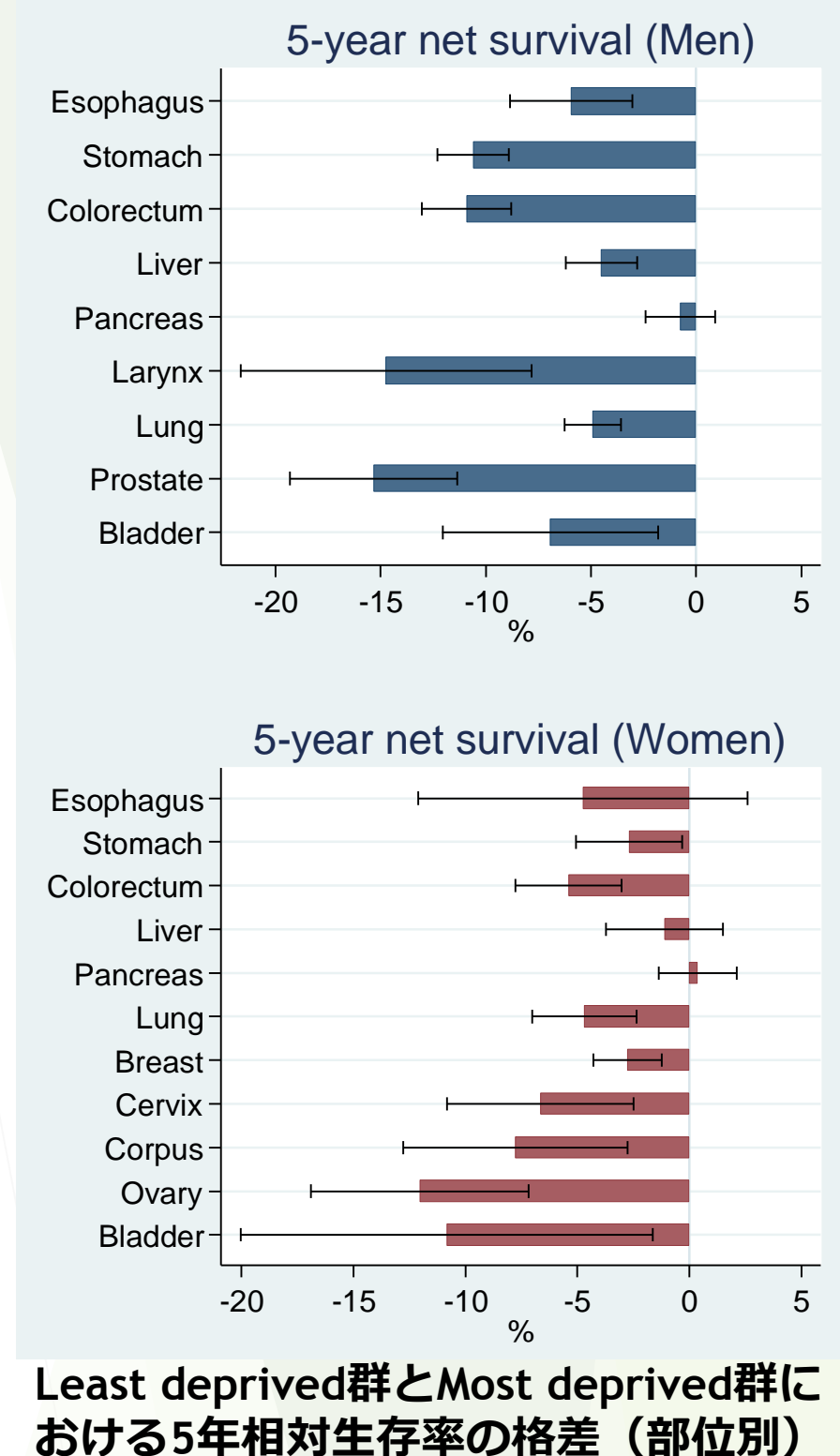
伊藤ゆり (大阪府立成人病センター)

**目的**：国民皆保険制度の下で、がん患者の生存率に社会経済因子による格差があるのか？

**方法**：地域がん登録資料を用いて、患者居住地により社会経済因子を推定 (中谷2011, 統計数理) し、5分位の群間で生存率に差がないかを検討。

**結果**：多くの部位でがん患者の生存率で格差がみられた。特にもともと予後のよい部位 (早期発見が可能な部位) での生存率の格差が大きい。

**考察**：格差の要因として、検診受診に由来する診断時進行度の違いなどが考えられるが、同じ進行度であっても格差があるため、治療の違いによる要因なども今後の検討課題である。



### 東日本大震災後の院外心停止の増加

清原康介 (東京女子医科大学)

**目的**：東日本大震災の前後で心原性院外心停止の発生状況が全国でどう変化したか明らかにする。

**方法**：全国ウツタイン統計資料を用いて、震央からの距離別 (200km以内、200-400km、400km以遠) に心原性院外心停止発生率を前後比較。

**結果**：75歳以上の高齢者では、震央に近い被災地域だけでなく、遠く離れた地域でも地震直後の1週間は心原性院外心停止発生リスクが有意に上昇。

**結語**：巨大地震発生時は、被災地はもとより遠隔地における高齢者のヘルスケアやメンタル面へのサポートも重要である可能性が示唆された。

